

JST 産学連携事業と スタートアップ

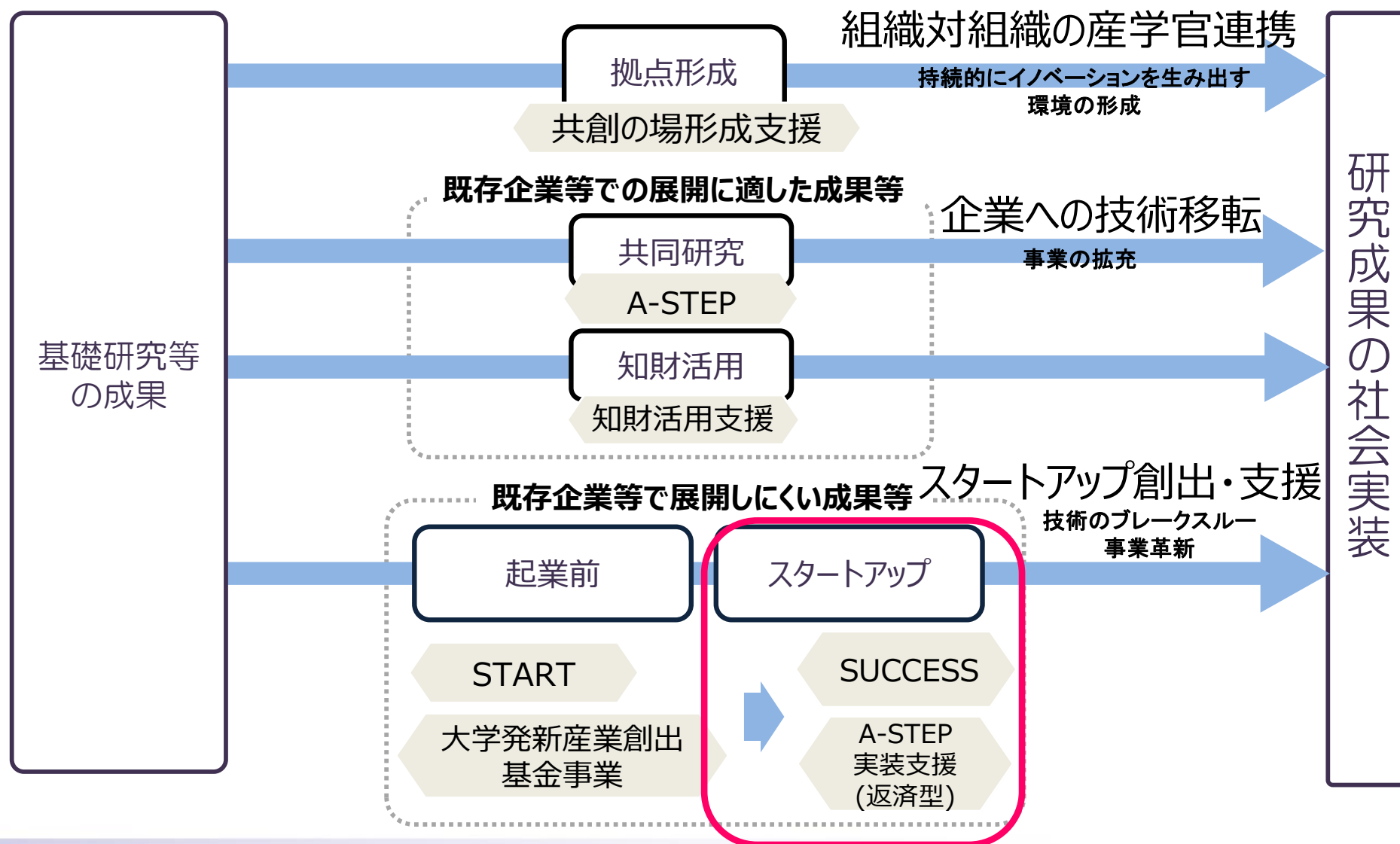
2025年 10月



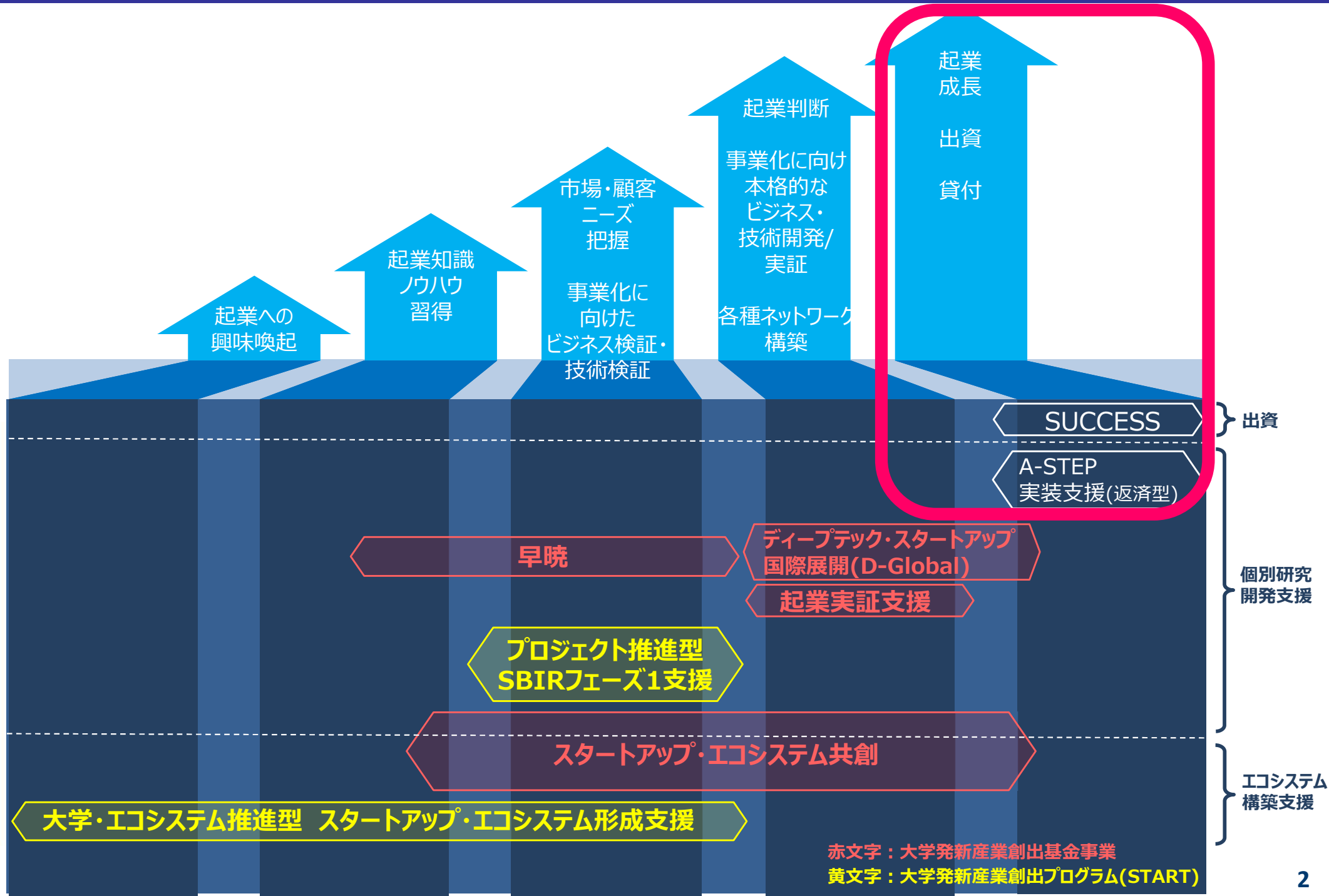
科学技術振興機構

JST R7年度 産学連携事業の全体像

大学等から社会実装を進める主な3つのルート



JSTのスタートアップ支援事業の位置づけ



出資型新事業創出支援プログラム（SUCCESS）

1. 事業概要

- 科学技術・イノベーション創出の活性化に関する法律に基づき、JSTの研究開発成果を事業活動において活用しようとする者（大学等発ベンチャー）に対し、JSTが**金銭出資**や自ら保有する**知的財産・設備等の現物出資**を行う

2. 目的

- ベンチャー企業の創出成長を通じて、**JSTの研究開発成果の実用化・社会還元を促進**
- JSTがベンチャーへ出資することで、更なる**民間資金の呼び込みを目指す**
- 知的財産の現物出資を可能とすることで、**JSTや大学の未利用特許を有効活用**

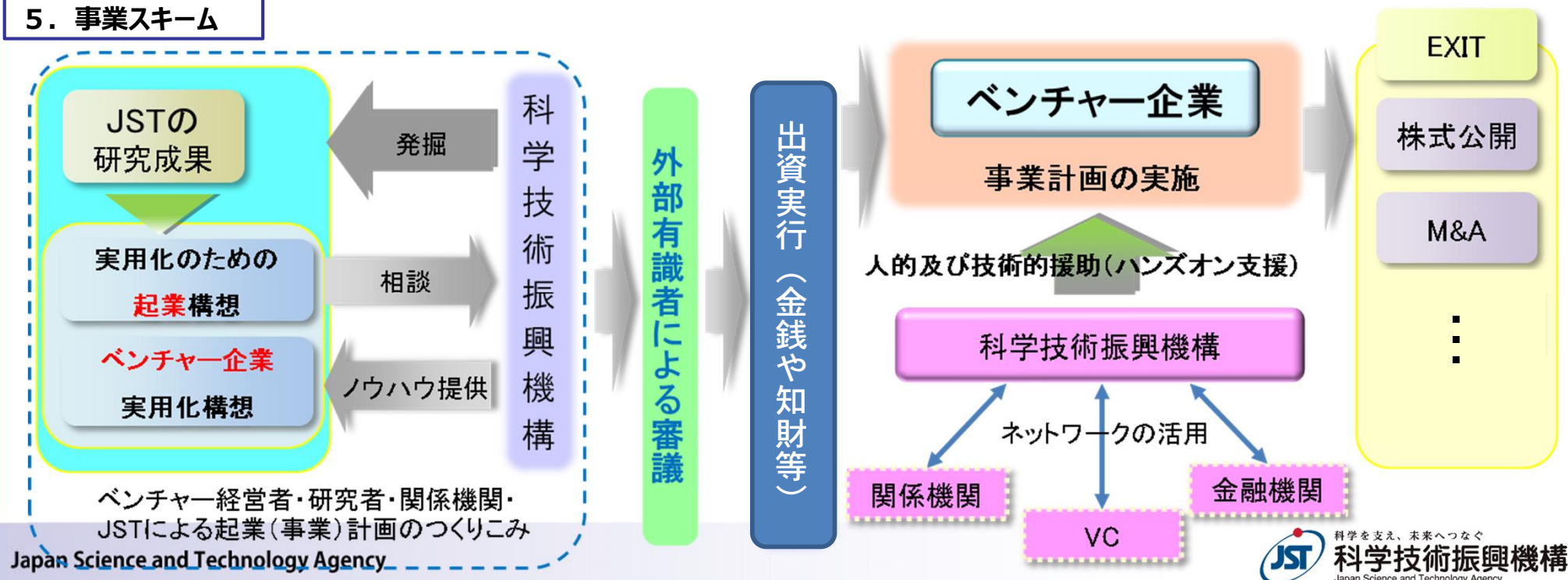
3. 出資対象

- **JSTの研究開発成果の実用化を目指すベンチャー企業**
- 設立から概ね5年以内の企業

4. 出資の上限

- 出資比率：原則として**総議決権の1/2**
- 出資金額：累計額で1社あたり**5億円**

5. 事業スキーム



A-STEP実装支援(返済型)

目的・狙い	大学等の研究成果（技術シーズ）の社会実装を目指す、スタートアップ等による実用化開発を支援する。
課題提案者 (対象 企業)	主に以下を満たす 企業 <ul style="list-style-type: none"> ● 中小企業基本法等の「中小企業者」に該当 ● 未上場または新興市場のみに上場 ● 大学等の研究成果の社会実装を目指している（大学等発スタートアップでなくても可能） ※設立年数は問わない
支援する開発	<ul style="list-style-type: none"> ● 開発期間：最長3年間 ● 開発費：上限5億円（間接経費・再委託費を含む総額） ● 対象分野：全分野（ただし医療分野を除く） ※技術シーズ（大学等の研究者の発明等に基づく知的財産権）を利用する権利を有することが必要です
返済条件	<p>開発終了後に行う事後評価結果により異なります（高評価順にS,A,B,Cの4段階評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● S,A,B評価の場合：開発費の全額を返済 ・利率：無利子 ・返済期間：開発終了後、10年以内（うち最長3年間の猶予可） ・返済方法：一括又は分割（事業計画に応じる） ・担保・保証は完済するまで設定を継続 ● C評価（開発不成功）の場合：開発費の10%を一括返済
担保・保証	開発費総額の10%相当（開発開始時に一括設定）
公募期間	<p>応募相談を通年で随時受付</p> <p>※審査：応募相談（デューデリジェンス）・選考</p> <p>※審査期間：最短5ヶ月</p>

A-STEP実装支援(返済型)

- ▶ VC等からの資金調達(エクイティ)に加えて、外部資金(デットや補助金)により開発の加速を狙う企業
- ▶ PoCを完了し、実用化を目指した“あと一歩”の開発資金が必要な企業 ……などを主な対象と想定

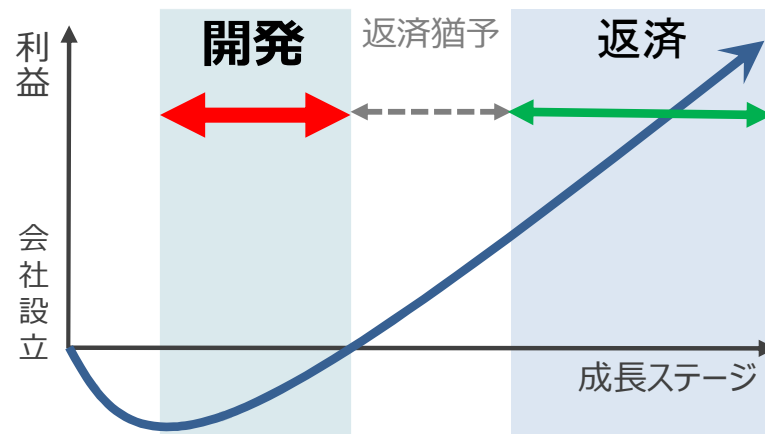
企業にとって

- 1 無利子等、スタートアップ等にフレンドリーな貸付条件
- 2 売上がない段階でもご利用可能
- 3 財務面だけでなく研究開発面にも着目しながら相談に対応

大学等にとっても

- 大学等の持つ特許等の知的財産権が有効活用される。

本事業の支援範囲(イメージ)



本フェーズにおける企業ニーズイメージ

例えばこんな場面で…



次の調達までに**製品開発を加速し、企業価値の向上に繋げたい**



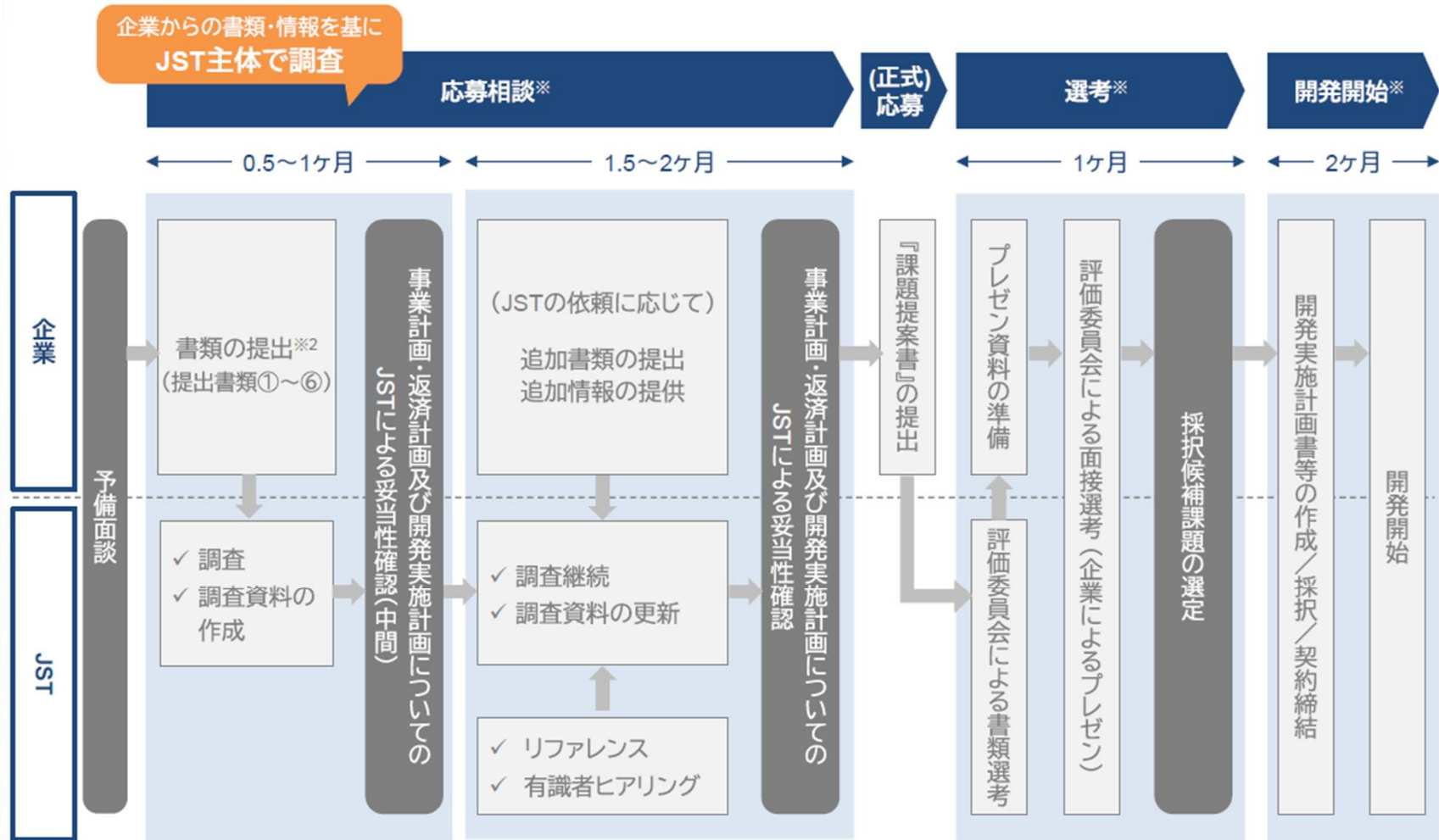
希薄化防止のために
出資以外で開発費を調達したい



新製品・サービスの実用化に向けて
最後の一押しの開発費を確保したい

A-STEP実装支援(返済型) 募集説明会資料から

応募相談・選考プロセスの詳細(順調に進む場合)



※ 企業・JSTで進捗状況を共有しつつ進めます。企業からの書類・情報やJSTの調査・手続き状況によってはスケジュールが後ろ倒しになる場合があります。